

国語（小学校）

- 学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくり

学習過程の明確化、「考えの形成」の重視

- ・「A 話すこと・聞くこと」「B 書くこと」「C 読むこと」の全ての領域において、自分の考えを形成する学習過程を重視し、「考えの形成」に関する指導事項を位置付けている。

児童の課題と指導のポイント

- ・本や文章から情報を取り出し、それらを根拠に考えを形成することに課題が見られる。
- ・目的意識をもって本や文章を読み、情報を活用する能力を育てる必要がある。

「個を活かす協働的な学び」の実現 「個に応じたきめ細かな指導」の充実

「授業づくりの三訓」を生かして（例）

しかけて待つ	語らせつないで	認め励ます
<p>■読む目的をもたせる 「何を知りたいのか」「どのような情報を見つければよいのか」など本や文章を読む目的を明確にする。</p> <p>◇手立ての例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元前に関連図書を教室に配架。興味・関心を喚起。 ・単元に位置付ける言語活動の意識付け。（教科書の「手引き」やモデルの提示等） ・日常生活や社会生活の話題を教材化。 	<p>■取り出した情報の検討 自分の考えを伝えるために取り上げた情報は適切か、不十分ではないかなどについて、友達と話し合う。</p> <p>◇手立ての例 自分の考えと、その理由や事例との関係は整合しているか（中学年）、事実と感想、意見とを区別しているか（高学年）など、指導事項に基づいた観点で検討する。</p>	<p>■小さな達成を称賛 言語活動を遂行する過程のステップごとに称賛</p> <p>◇手立ての例（書くこと）</p> <ul style="list-style-type: none"> 材料を集められたか 材料を選べたか 構成を考えられたか 適切な言葉を用いて書くことができたか 推敲ができたか <p>など、一つ一つのステップを乗り越えられるよう支援し、達成したら称賛。</p>

自分の表現が伝わるか、もっとよい表現はないかを考えるために、友達と交流し、自分の表現を客観視することが大切です。書き手（話し手）が読み手（聞き手）を意識できるようにしましょう。



ICT活用について

インターネットには、たくさんの情報が掲載されているため、子どもたちは、情報収集の過程で見つけた資料の適切さを十分に検討することなく用がちです。資料の活用については、「話すこと・聞くこと」では、学習指導要領に次のように書かれています。

第5学年及び第6学年「A 話すこと・聞くこと」

(1) ウ 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。

- 資料活用に当たって
 - ・目的や相手、状況などを踏まえ、話す内容と資料との整合、適切な時間や機会での資料の提示の仕方に注意する必要がある。
- 表現の工夫
 - ・聞き手の興味・関心や情報量などを予想
 - ・補足説明が必要な個所や言葉だけでは伝わりにくい内容について、どのような資料を用意すればよいかを考えることが重要

【参考】令和3年度全国学力・学習状況調査 1（調べたことについて、資料を使ってスピーチをする（津田梅子の紹介））

たくさん資料が見つかったけれど、どれが適切かな。

